

&Arts

アーツ

特集

アーツ前橋の楽しみ方

突然ですが、質問です。

「あなたの人生にアートは必要ですか？」こんな問いに即座に「YES!」と答えられる人は少ないかも。でも、5年後10年後、ここ前橋で「YES」という声があちこちから聞こえてくるに違いない!そんな期待と可能性を感じさせてくれる場所、それが『アーツ前橋』です。

「芸術家や作家というと特殊な人のように思われるかもしれませんが、日常生活の中で人々が感じていることをそれぞれのやりかたで形にしているのです。美術は目的がひとつではないし、色々な考えや感じ方を許容してくれるもの。みんなで同じ見方をする必要はなくて、ボクはこう思うけど君はどう思う?という話ができる場にしていきたいですね」。そう話すのは、出航したばかりの『アーツ』号を率いる若き船長・住友文彦さん。金沢21世紀美術館や東京都現代美術館など、国内アートの最前線場で培ってきた経験を活かし、“表現して伝えること(=アート)”の魅力をひとりでも多くの人に感じてもらおうと、開館前のイベントから様々な試みを展開しています。

『アーツ』のコンセプトは「創造的であること」「みんなで共有すること」「対話的であること」。考えの異なる個人が感じたものを自由に発表し、そこに多くの人々が自分事として関わり、互いに個性を認め合うことで新たなアイデアが生まれ、その「つなぎ手」でありたいという願いが込められています。そのため、

サポーターやメンバーシップなど誰もが美術館の活動に参加できる仕組みを設けたり、美術だけでなく音楽や映像・ダンスといった幅広いジャンルをアートとして捉えるなど(だから「アーツ」なんです!）、既存の文化施設の枠に収まりきらない独自の活動に力を入れています。どうですか?自分の街にこんな美術館があるなんて、ちょっと自慢したくなりませんか!?



「大都市のように消費優先の経済がうまく廻っていればいいのかと言えば、これからはそうではない。市街地の中心に美術館を作れることや、街を歩けば偶然知り合いに会えるサイズは、前橋ならではの魅力です。もともと文化的な地盤の強い街ですが、最近 はアーティストやクリエイターの活動拠点も増えてさらに楽しくなってきましたよ！」まずはカフェやショップにぶらっと立ち寄ることで『アーツ』を体験してみてもと住友さん。

『アーツ』号という名の白い帆船が切り拓いていく未来。そこに、アートの力で様々な可能性が開花した、色鮮やかな街の姿が見えてきます。

アーツ前橋 館長
住友 文彦
SUMITOMO Fumihiko



特集

アーツ前橋の楽しみ方

How to enjoy Arts Maebashi?

アーツ前橋にはいろいろな人が関わっています、あなたに合った楽しみ方もきっと見つかるはず。

美術作品を鑑賞したい方へ

アーティスト特別インタビュー

津上みゆき

TSUGAMI Miyuki

多様な考え方や感性に触れてもらうことを目的に、中堅アーティストを紹介する企画展「Art Meets」。1回目となるこの春の展示に参加されたアーティストのひとり、津上みゆきさんに、美術との出会い、アートの楽しみ方について、お話をうかがいました。

津上さんがキャンバスに描くのは、色鮮やかな油彩を用いた「風景画」。というものの実際に目にする作品は、景色の美しいところに行って、スケッチしたり絵画にする一般的な「風景画」のイメージとは少し異なります。

「私の場合はどこを描こうではなく、『自分がどこにいて、自分の存在とは何か』ということを考えるために風景を選び、描いているので、初動が違うのですね。でも皆さんが写真を撮るのと同じです。撮りたい！と思うのは、自分の何かを残しておきたいと思うから。私は、自分の手で何が引っかかっているのかを探して残したいだけなんです。」すらりとした長身で、くすっと笑う表情が可愛い津上さん。頭の中の言葉をひとつひとつ拾いあげるように話をしてくれます。

「絵を描くことと出会ったのは、中学の美術部のとき。

夏の合宿先で見た風景をどう

にか紙に残したくて、朝から日が沈むまでずっと描き続けたんです。すごく集中して自分でもいいものが描けたと思ったら、先生や仲間たちも褒めてくれて。それまで自分と周囲の間には壁があると思っていたのが、絵を描くことでコミュニケーションができる、社会と繋がることのできるんだと知って。その瞬間、自分の真ん中に絵を描くことが居座りました」。

『View』と名付けられた彼女の風景画には、



13
枚でひとつの作品になるシリーズが

あります。「人と自然がど

れくらいの距離にいるのか興味を持ち始めたときに、祖母が亡くなって。人の短い人生ともっと大きな自然というサイクルがどう関わってくるのか。それを知りたくて、自分や家族の誕生日や命日にあわせて、同じ場所に行って風景を描くということを始めたんです」。

現場ではモレスキンなど小さなノートにスケッチをする津上さん。今回の展示では、特別にアーカイヴコーナーでそのスケッチ帳を見ることができま



● アーツ前橋を支え、育てたい

アーツ前橋メンバーシップ 法人会員
中島 信之さん

年会費を払うことで、展覧会が入場無料、会報などの特典を受けられる「メンバーシップ」。僕がメンバーになったのは、①アーツ前橋が、5年・10年先、さらに魅力的な施設に育ってほしい。②市民が設立準備の段階から関わったこの施設を、市民自身で支え、育てていきたい。③きちんとした評価と対価を得られるアーティストが増え、若いアーティストが育つ社会になるよう貢献したいから。メンバーという深い関わりを持つことで、知らない人にアーツ前橋を紹介するとき、説得力のある話として聞いてもらえますよ。



● 自分で企画を実行したい

「アーツ桑町」利用者
新井 隆人さん

プレイベントとして開催されたアートスクールで“地域とアート”に関心を持ち、そのときのメンバーで「プランツ」（街なか企画会議）を結成。今は地域アートプロジェクトから生まれたスペース「アーツ桑町」で様々なイベントの企画に携わっています。僕自身、本業はサラリーマンですが詩も書きます。「桑町」の特徴はプロ以外の“表現をしたい”という人をサポートすること。一言で言えば「やりたいことができる場所」！アートを通じて街を楽しむことで結果的に街を元気にすることに繋がっていったらいいですね。



● カフェを楽しく利用したい

利用者
橋本 薫さん

仕事柄、街中で人と待合せや打合せをする機会が多いのですが、そんなときアーツ内のカフェ「ROBSON COFFEE」をよく利用しています。前橋にはレトロな喫茶店はあっても、都会的でモダンなカフェはあまりなかったですね。リラックスと同時にクリエイティブな刺激も受けられる。白が基調で広いので、ともすれば落ち着かない空間になりそうなんです。家具のセレクトや配置がうまいので疲れない。窓越しに街ゆく人を眺めるのも楽しいし、手元にも集中できる。内と外の混じり具合がちょうどいいんです。

す。「最終的には絵を見て感じてほしいので、元のスケッチはあまり見せないのですが。日本庭園に色々な見方があるように、見る人の中にある風景と繋げて、新しい風景をそれぞれの中に立ち上げてもらえたら…」。

「アートは高いところにある輝かしいものではなくて、誰の中にもある泥臭くてわがままなもの」と津上さん。「だからこそ答えもないので『この見方で合っているのかな?』と思う必要はなくて、誰もが自分の意見を持ち、自分の言葉で作品や他者と繋がっていければいいのだと思います」。

津上みゆき (TSUGAMI Miyuki)

1973年東京都生まれ、大阪府育ち。1995年京都造形芸術大学卒業。1998年京都造形芸術大学大学院芸術研究科修了。2003年VOCA賞受賞。2005年第1回ARKOにて岡山県倉敷市に滞在制作。2013年五島記念文化賞美術部門新人賞受賞により現在ロンドン滞在。



● 子どものアート鑑賞をサポート

鑑賞サポーター
新井 和枝さん

小学生の見学プログラム「おしゃべりアートツアー」で、子どもたちと一緒に作品鑑賞を楽しむボランティアサポーターをしています。普段は保育士で、趣味で演劇もやっていますが、アートについての知識はゼロ。でもサポーターは作品を解説するのではなく、子どもたちから反応を引き出してあげるのが役割。いつも思いもよらない反応が返ってきて面白いですし、サポーター育成プログラムでも美術の知識より身体的なワークショップなどを学ぶので、私のように美術を知らない人でも（かえってそのほうが）楽しめますよ！



● 事業の裏方として手伝いたい

アーツ前橋サポーター
林 恵津子さん

美術館ができると聞いて気になって、サポーターを養成するアートスクールを受講。現在はアーカイヴの図書資料の整理や、各地の美術館や施設に送るチラシやポスターの手配などを行なっています。サポーターになってみてよかったと思うのは、前橋の街をよく歩くようになったこと、学芸員やスタッフ、アーティストなど様々な人との出会いが広がったこと。新しい美術館なのでサポーター間に年数の差もなく自由な雰囲気がありますし、それぞれができる範囲で“関わり方をカスタマイズ”できるので続けやすいと思います。

開催中の展覧会のご案内

- 白川昌生 ダダ、ダダ、ダ
- 地域に生きる想像☆の力



会期：2014年3月15日（土）～6月15日（日）
開館時間：11時から19時まで（入館は閉館の30分前まで）
休館日：水曜日
観覧料：一般 600円（400円） / 大学生 400円 / 65歳以上 400円 / 高校生以下 無料

白川昌生は、欧米や都市部を中心とした芸術における支配的な価値観に対して批判的な距離をとり、自らが生活する地域の歴史や文化に着目して表現活動をおこなってきました。それゆえに、作家が生きてきた社会、経済、思想などと深く関わることを重視し、作品制作のみならず、展覧会の企画や執筆活動も含めた広範な表現活動によって高い評価を得ています。

この展覧会では、こうした活動を概観するために白川がヨーロッパ滞在中に制作したコンセプトノートから、今回の展覧会のために制作された新作までをご紹介します。また、白川と関わりの深い次世代の作家との共同制作によって、その同時代性にも着目していただければと考えています。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方および付添 1 名無料
※（ ）内は 10 名以上の団体料金

- Art Meets01
- 津上みゆき / 狩野哲郎



会期：2014年3月8日（土）～6月10日（火）
開館時間：11時から19時まで（入館は閉館の30分前まで）
休館日：水曜日
観覧料：無料

アーツ前橋は、さまざまな人がここでアートと出会い、アートを通じて創造的な日常を発見し、多様な考え方や感性に触れていただくことを目的に、中堅アーティストを紹介する企画展「Art Meets」を開催します。初回は、風景を表現する作家、津上みゆき（1973 年生まれ）と狩野哲郎（1980 年生まれ）です。

津上みゆきは「View」と名付けられたシリーズで、自分を含めた時間や場所が変化する風景を主観的に描き出します。一方、狩野哲郎は、自分を取り巻く環境を客観的に認識しようとし、生きものの視点による新しい機能や意味を見出そうとする作品を制作しています。ふたりのアーティストが切りとった、それぞれの風景の見え方や世界の認識の仕方をお楽しみいただけます。

※4月13日（日）は、「駅家の木馬まつり」のため無料
※トワイライト割引（17 時以降の入館）400 円
※毎月 22 日は、ペア割引 800 円 / 2 名

メンバーシップのご案内

メンバーシップは、アーツ前橋の活動を支援しながらアートをもっと身近に楽しんでいただくためのプログラムです。展覧会入場無料やメンバー向けのイベントへのご招待など、さまざまな会員特典があります。どなたさまでもご入会いただけますので、ご家族・ご友人をお誘い合わせの上、ご入会ください。

主な特典

- 展覧会が何度でも入場無料です
- メンバー限定の会報で、アーツ前橋の情報をキャッチできます
- 展覧会プレビューにご招待。いち早く展示をチェックできます
- ※その他、会員種類に応じてさまざまな特典があります
- ※発行日より 1 年間

入会申し込み方法

- 1 総合案内にて アーツ前橋 1F 総合案内で年会費をお支払いいただくと、即日発行できます。
- 2 郵送・FAX にて 入会申込書に所定の事項を記入の上、アーツ前橋宛に郵便か FAX でお送りいただくとともに、年会費を指定の口座にお振込みください。確認ができ次第、会員証をお送りします。
- 3 オンラインでの申込み アーツ前橋ウェブサイトで必要事項を記入し送信いただくとともに、年会費を指定の口座にお振込みください。確認ができ次第、会員証をお送りします。

会員種類・年会費

- 一般会員 3,000 円
- ペア会員 5,000 円（2 名分）
- 賛助会員 20,000 円（1 口）
- 法人会員 30,000 円（1 口）

※法人会員のご入会につきましては、事前にお問い合わせください

振込先

銀行口座

群馬銀行前橋支店
普通 1799796

※振込手数料は、払込者のご負担となります

アーティストコラム

山極満博

YAMAGIWA Mitsuhiro

「アーティストのおすすめ〇〇」をお聞きするこのコラム。今回はアーツ前橋に作品を展示している山極満博さんに「おすすめの『過ごし方』」と題して語ってもらいました。展示作品についての解説と合わせてどうぞ。作品はちょっと意外なところに 3 点展示されています。探してみてくださいね。

●●● アーティストおすすめの「過ごし方」

【ぼつんとぼかん】私は、複数のメディアを平行関係に置くことで、日常と制作を混ぜこぜにし、ある一定の対象に行き着かない、そんな力加減を大切にしている。ぼつんとして、ぼかんとすることは、自分にとって相補的な関係があるような気がする。内と外を行き来しながら、だんだん内の外へと引っぱりだされ、前後間の連なりや繋がりが自分でもわからなくなってくる。意味があるかわからないけど、2 つの項目をランダムに並べてみました。

【ぼつん】『全体性と無限』-レヴィナス、柿ピー、“Pink moon”-Nick Drake、古道具、“Underground”-Thelonious Monk、「俺はまだ本気出してないだけ」-青野春秋、“Quiet Is The New Loud”-kings of convenience、“Alina”-Arvo Pärt、「アイス・ストーム」-アン・リー、“Twilight”-haruka nakamura

【ぼかん】『お早よう』-小津安二郎、温泉、“Wake:Sleep”-A Lily、「ぼくトンちゃん」-いましるたかし、“Boum”-Charles Trenet、「女同士」-成瀬巳喜男、“Branches”-Keith Kenniff、豆腐、“milano”-竹村延和、「主人公は僕だった」-マーク・フォスター、“kurr”-Amiina、“lust”-rei harakami

●●● アーツ前橋展示作品について

わたしたちが「作品というもの」に出会う時、そこには何があるのだろうか。一見、目には見えない、近いようで遠い、はかれない「距離」があるとすれば、そこで立ち止まり難いと感じるのは自然なことかもしれない。私の作品は、そんな不確かな距離間で対象から逸れ、視点を移動することで生成される空間と向き合うことで、それを見る「わたしという容器」を意識し、わたし自身の背景に気づかされる、そんな「わたしというものさし」を見つめ直す“はかり”をアーツ前橋という「場」から持ち帰ることができたらよいと考えます。

山極満博 (YAMAGIWA Mitsuhiro)

1969 年長野県生まれ。移動と距離、スケールを軸に絵画から写真、インスタレーションへ展開しながら「見ること」の関係性を描く。2008 年パブリック・コレクションとなった「あつちとこちとそち」十和田市現代美術館。2010 年「知覚の扉」豊田市美術館、2011 年「風景をつくる」ZELLWEGERPARK（スイス）他多数。 <http://mit-yamagi.com/>

アーツ前橋
ARTS MAEBASHI

371-0022
群馬県前橋市千代田町 5-1-16
5-1-16, Chiyodamachi
Maebashi Gunma 371-0022
TEL 027-230-1144 FAX 027-232-2016

URL artsmaebashi.jp

CAFE カフェ ROBSON COFFEE ARTS MAEBASHI
ロブソンコーヒー アーツ前橋

営業時間 月 / 火 / 木 / 日 10:30 ~ 20:30
金 / 土 10:30 ~ 22:00

休業日 水 / 年末年始

TEL 027-233-3005

SHOP ショップ アートショップ AO アーツ前橋店

営業時間 11:00 ~ 19:00

休業日 水 / 年末年始

TEL 027-233-1122

&Arts

アーツ前橋ニュースレター
アンドアーツ

平成 26 年 3 月 31 日

企画発行：アーツ前橋

編集・デザイン：荻原貴男

撮影：上原ミワ

執筆：藤野麻子

表紙写真：木暮伸也